

授業展開案 高等学校地理歴史「日本史 A」

1 テーマ

明治初期の周辺外交

2 I C T 利活用のねらい

明治政府の初期の外交について、I C T 機器を用いて関連する図を表示することによって効率よく知識事項の説明をする。また、当時の外交の在り方について、地図を用いて視覚的に把握させることで、空間的に歴史を捉えることの大切さに気付かせるとともに、他の生徒の考察に触れながら前近代と近代の外交の在り方の違いについて考察を深めさせる。

3 利活用する I C T 機器及びソフトウェア

①機器：電子黒板、学習者用端末

②教材：「大日本帝国の拡大」(Microsoft PowerPoint)のスライド 1 ～ 3
ワークシート「明治初期の周辺外交」(Microsoft Word)

4 I C T 利活用の場面

学習内容	I C T 利活用の場面
<p>※学習したことをワークシートにまとめる。</p> <p>近代以前の東アジア外交を概観し、中華王朝による華夷秩序を中心とした朝貢・冊封等の東アジアにおける外交の特徴を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「遣隋使、遣唐使、蒙古襲来、日明貿易」等、知っていることを書き出す。 ・「友好的関係」「対立する関係」に分類する。 ・「友好」「対立」に分類した内容から、東アジア外交の特徴を考える。 <p>明治政府の初期の外交について、ワークシートに沿って確認する。</p> <p>近代以前の外交と近代以後の明治政府の外交の在り方の違いをまとめる。</p>	<p>①表現活動：学習者用端末の Microsoft OneNote に知っている歴史用語を書き出させ、分類させる。学習者用端末での作業を電子黒板に表示する。</p> <p>②説明の補助：初期の外交に関する地図を提示する。</p>

5 ICT利活用のポイント

①表現活動

学習者用端末の Microsoft OneNote に外交に関する用語を自由に書き出させた後、書き出した用語を移動しながら「友好的な関係」「対立する関係」に分類させる。生徒が記入・分類したものを電子黒板上に表示する。他の生徒の作業に触れることで、自分の考えをより深めることができる。



②説明の補助

教材「大日本帝国の拡大」を用いて説明する。まず、明治初期の周辺外交における領土の確定を明治期全体期の領土・勢力範囲の拡大の中に位置付ける際に、アニメーション機能を用いながら地図の色を変えることで視覚的に確認する(図1)。次に明治初期の周辺外交の詳細な内容について、アニメーション機能を活用して地図・事件名等を電子黒板上に表示し、生徒にはワークシートに歴史用語を記入させながら教師が効率よく説明を行う(図2)。知識事項を効率よく確認することで、授業のまとめの時間を確保することができる。

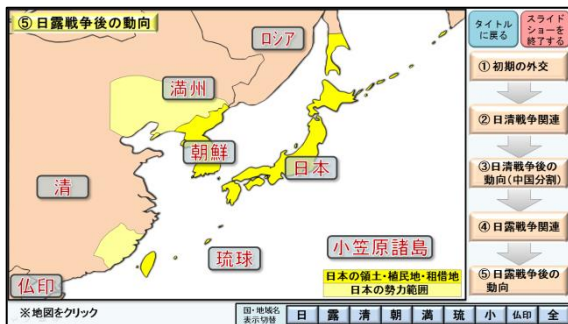


図1 明治期を通じた領土・利権の拡大についての地図

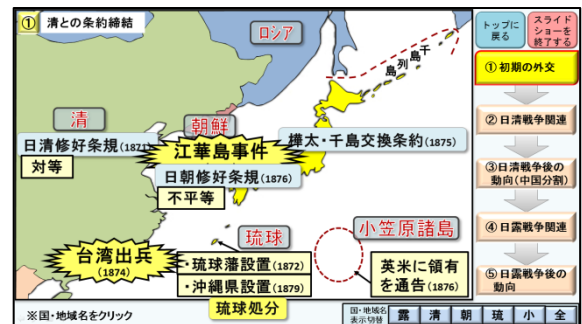


図2 明治初期の周辺外交に関する地図